



HS1200 ユーザーマニュアル

リリース v1.0.0

2026-06-27

目次

1 システム設定	3
1.1 工場出荷時のデフォルト設定	3
1.2 製品のユーザー設定	3
1.3 ファームウェアのバージョン	3
1.4 ブザー設定	3
2 デバイスの機能設定	6
2.1 ランプ構成	6
2.2 請求書機能	6
3 トリガー設定	7
3.1 読書モード	7
4 インターフェース設定	9
4.1 シリアルポートの設定	9
5 キーボード設定	11
5.1 USB キーボード構成	11
6 データ編集	19
6.1 プレフィックスとサフィックスの構成	19
6.2 データ編集フィールドの構成	24
7 キャラクター設定	26
7.1 GS 制御文字置換	26
7.2 制御文字出力	27
8 バーコード設定	28
8.1 コード体系の選択	28
8.2 リテラシー向上のオプション	58
9 付録	60
9.1 バーコードのデータ化と編集	60
9.2 バーコードタイプ ID テーブル	64
9.3 AIM ID テーブル	65
9.4 可視文字 ASCII テーブル	65
9.5 制御文字セット (USB キーボードモード)	66
9.6 制御文字セット (シリアルポートおよび USB 仮想串口)	67
9.7 部分的な関数の構成手順と例	68

1 システム設定

1.1 工場出荷時のデフォルト設定

次のセットアップコードをスキャンして、製品を工場出荷時のデフォルト設定に復元します。



二次メーカーのデフォルト設定を復元する

1.2 製品のユーザー設定

次の設定コードをスキャンして、製品の現在のパラメータをユーザー設定として保存します。



ユーザー設定を保存する

次のセットアップコードをスキャンして、製品を保存されたユーザー構成に復元します。



ユーザー設定を復元する

1.3 ファームウェアのバージョン



ファームウェアのバージョン

1.4 プザー設定

ボリュームサイズ

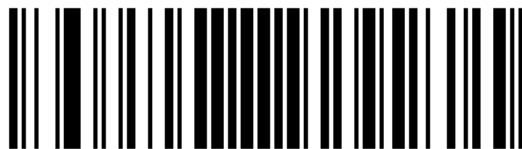


小さい音量

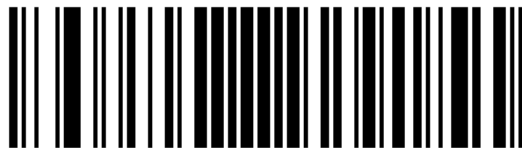


* 大音量

コード読み取り装置起動音スイッチ



コード読み取りデバイスの起動プロンプト音がオフになる



* コード読み取りデバイスの起動プロンプト音がオンになっています。

デコード成功音スイッチ

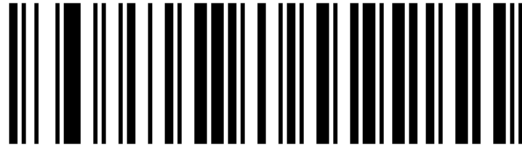


デコード成功のプロンプト音をオフにする



* デコード成功時のプロンプト音

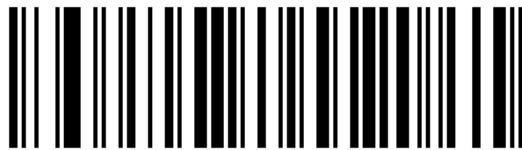
デコード成功プロンプトトーン周波数 (ピッチ)



* デコード成功プロンプトトーン周波数 1



デコード成功プロンプトトーン周波数 2



デコード成功プロンプトトーン周波数 3



デコード成功プロンプトトーン周波数をカスタマイズする

デコード成功のプロンプトトーンの長さ



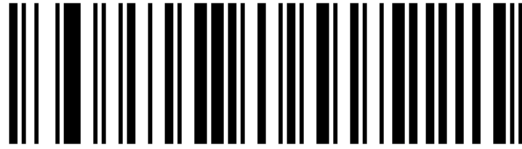
* デコード成功のプロンプト音 1



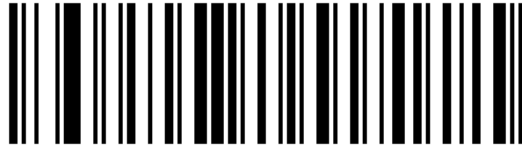
デコード成功音 2

エラー警告音周波数（ピッチ）

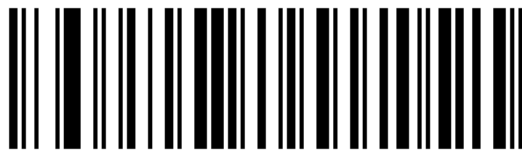
データ送信に失敗するとエラー警告音が 4 回連続で鳴ります。認識できない設定コードを読み取ると、エラー警告音が 1 回鳴ります。



* エラー警告音の周波数が低い



エラー警告音の頻度は中程度です



エラー警告音の周波数が高い

2 デバイスの機能設定

2.1 ランプ構成

LED インジケータライト



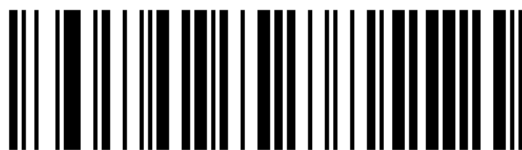
デコード成功 LED プロンプト消灯



* デコード成功 LED プロンプトライト点灯

2.2 請求書機能

請求書機能を有効/無効にする



* 請求書機能を無効にする

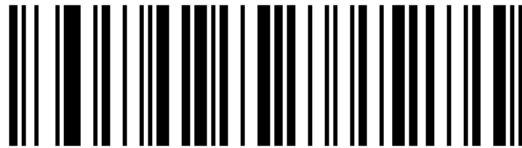


請求書発行を有効にする

重要

請求書機能を有効にできるかどうかは、正しい中国語の文字/エンコーディング出力設定によって異なります。GBK エンコーディング (メモ帳/エクセル) を使用することをお勧めします。同時に、バーコードの元の内容を書き換える Code ID、カスタムサフィックス、開始文字などの機能を無効にしてください。

請求書の種類の選択



* 特別請求書



通常の請求書

3 トリガー設定

3.1 読書モード



* 通常モード



1次元クイックスキャンモード

同じコードの遅延

同じバーコードをデコードする間隔時間を設定するために使用されます。設定時間を超えない場合、同じバーコードは1回だけデコードされます。



同一コード遅延間隔 300ms



* 同一コード遅延間隔 500ms



同一コード遅延間隔 750ms



同一コード遅延間隔 1s



同一コード遅延間隔 2s



同一コード遅延間隔 5 秒



同一コード遅延間隔 10 秒

4 インターフェース設定

4.1 シリアルポートの設定

シリアルポートのボーレート設定



ボーレート 4800



* ボーレート 9600



ボーレート 19200



ボーレート 38400



ボーレート 57600



ボーレート 115200

シリアルポートのデータビット、ストップビット、パリティビットの設定



7ビットデータ、1ビットストップ、パリティなし



7ビットデータ、1ビットストップ、偶数パリティ



7ビットデータ、1ビットストップ、奇数パリティ



7ビットデータ、2ビットストップ、パリティなし



7ビットデータ、2ビットストップ、偶数パリティ



7ビットデータ、2ビットストップ、奇数パリティ



* 8 ビットデータ、1 ビットストップ、チェックサムなし



8 ビットデータ、1 ビットストップ、偶数パリティ



8 ビットデータ、1 ビットストップ、奇数パリティ



8 ビットデータ、2 ビットストップ、パリティなし



8 ビットデータ、2 ビットストップ、偶数パリティ



8 ビットデータ、2 ビットストップ、奇数パリティ

5 キーボード設定

5.1 USB キーボード構成

制御文字のエスケープ



制御文字のエスケープを有効にする 1

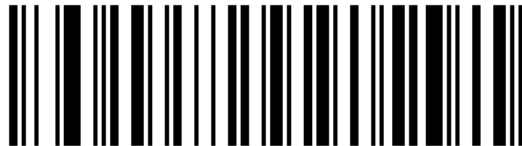


制御文字のエスケープ 2 を有効にする

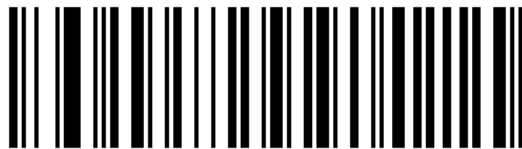


制御文字のエスケープを無効にする

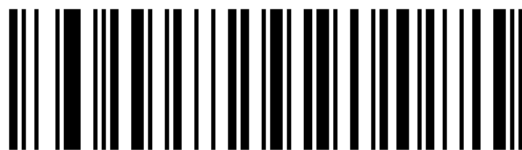
バーコードコンテンツ内のキャリッジリターンおよびラインフィード文字の処理 (USB キーボード)



0A(改行文字 LF) のみ改行



* 0D (復帰文字 CR) 改行のみ



0A (改行文字 LF) および 0D (復帰文字 CR) 両方とも改行

USB キーボード出力速度

注釈

USB キーボードモードでデータを出力するときの速度を構成するために使用されます。使用しているホストのパフォーマンスが低い場合は、送信精度を確保するために低速を選択することをお勧めします。



* 出力速度が低い



出力速度

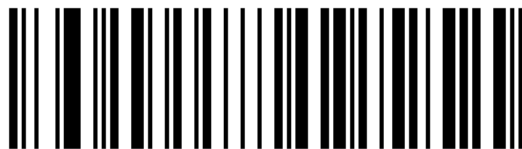


高い出力速度

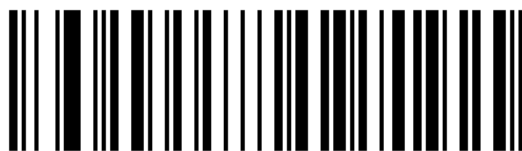


カスタマイズされた出力速度 (2ms~50ms)

USB キーボードケース出力制御



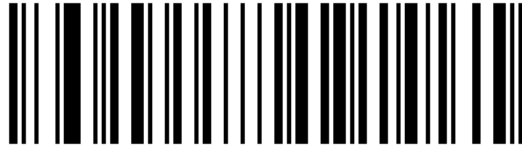
* 通常の出力



大文字と小文字の反転

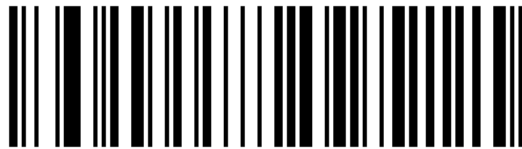


すべて大文字



すべて小文字

キーボードレイアウトの選択キーボードレイアウト



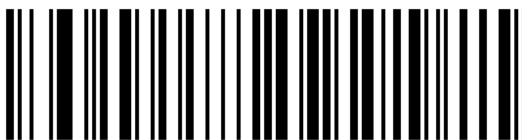
* 米国 - 英語英語 (米国)



フランス - フランス語フランス語 (フランス)



イタリア語 (イタリア)



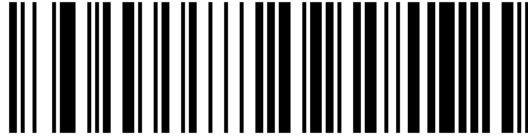
イタリア語 142 (イタリア)



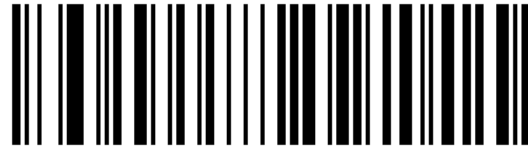
ドイツ語 (ドイツ)



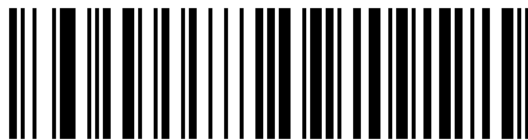
スペイン語 (スペイン)



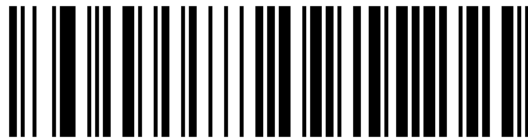
スペイン語スペイン語 (ラテンアメリカ)



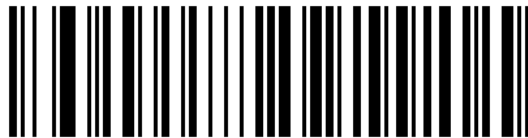
フィンランド語



日本語日本語



ロシア語ロシア語 (MS)



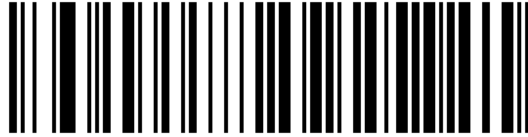
ロシア語ロシア語 (タイプライター)



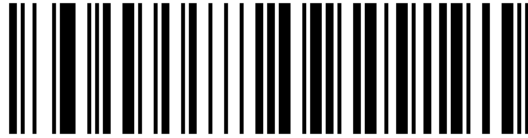
アラビア語アラビア語 (101)



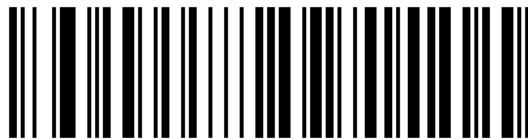
アイルランド語



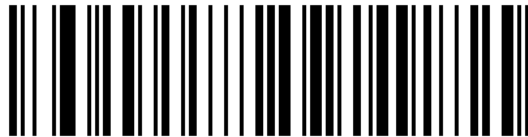
ポーランド語 (214)



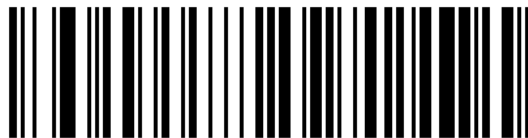
ポーランド人 (プログラマー)



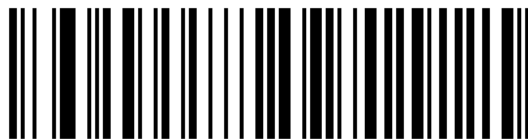
オランダ語オランダ語 (オランダ)



チェコ語チェコ語 (QWERTZ)



ポルトガル語 (ポルトガル)



ポルトガル語 (ブラジル)



スウェーデン語 (スウェーデン)



トルコ語 Q トルコ語 Q



トルコ語 F トルコ語 F



ギリシャ語ギリシャ語 (MS)



フランス語 (ベルギー)



イギリス - 英語英語 (イギリス)

仮想キーボード

モード 1: 0x20 ~ 0xFF の間の文字は、現在のキーボードレイアウトではサポートされていない仮想キーボードモードを使用して出力されます。0x00 ~ 0x1F の間の文字は制御文字セット (USB キーボードモード) に従って出力されます。

モード 2: 0x20 ~ 0xFF の間のすべての文字は仮想キーボードを使用して出力され、0x00 ~ 0x1F の間の文字は制御文字セット (USB キーボードモード) に従って出力されます。

モード 3: 0x00 ~ 0xFF の間で使用される文字が仮想キーボードを使用して出力されます。



* 仮想キーボードが無効になっています



仮想キーボードが有効 (モード 1)

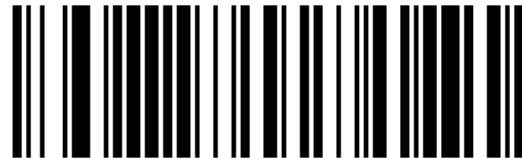


仮想キーボードが有効 (モード 2)



仮想キーボードが有効 (モード 3)

仮想キーボードモードでのホストオペレーティングシステムの選択



* ウィンドウズ



MAC OS

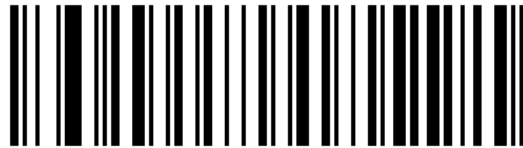


LINUX

出力エンコード形式

指定したエンコード形式に従って正しく出力するには、出力エンコード形式を指定する必要があります。たとえば、メモ帳/エクセルなどの形式での簡体字中国語の出力は GBK エンコードとして構成され、Word などの形式での出力は Unicode エンコードとして構成されます。

出力エンコード形式が英語/Latin-1 エンコードとして構成されている場合、USB キーボードの出力モードは仮想キーボード機能スイッチの影響を受けます。出力エンコード形式が GBK エンコード/Unicode エンコードとして構成されている場合、USB キーボードの出力モードは強制的に仮想キーボード出力になります。



* ネイティブキーボード出力



中国語 GBK エンコーディング (メモ帳/Excel)



Unicode エンコード (Word)

6 データ編集

6.1 プレフィックスとサフィックスの構成

スターター



* は開始文字を使用しません



開始文字は STX に設定されます

ターミネーター



ターミネータを使用しないでください



ターミネータは復帰に設定されています



ターミネータは改行に設定されます



* ターミネータは復帰と改行に設定されます



ターミネータはタブに設定されています



ターミネータは ETX に設定されています

カスタムプレフィックス
出力オプション



カスタムプレフィックス出力を有効にする



* カスタムプレフィックス出力を無効にする

編集



すべてのカスタムプレフィックスをクリアします



カスタムプレフィックス

参考

設定コードをスキャンした後、[バーコードタイプ ID テーブル](#) およびバーコードのデータ化と編集を参照して以降の入力を完了してください。

カスタムサフィックス

出力オプション



カスタムサフィックス出力を有効にする

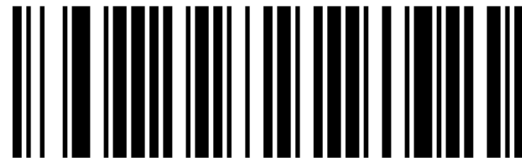


* カスタムサフィックス出力を無効にする

編集



すべてのカスタムサフィックスをクリアします



カスタムサフィックス

➡ 参考

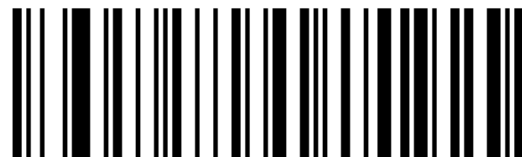
設定コードをスキャンした後、[バーコードタイプ ID テーブル](#) およびバーコードのデータ化と編集を参照して以降の入力を完了してください。

Code ID

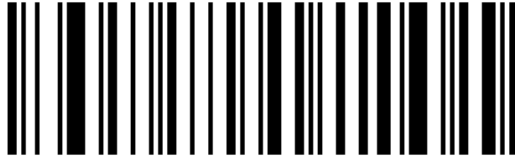
出力オプション



* Code ID を無効にする

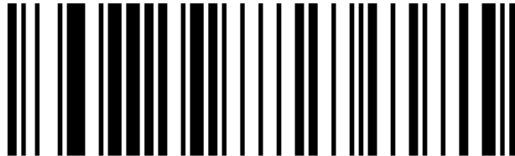


バーコード Code ID を有効にする前



バーコード Code ID を有効にした後

編集



カスタム Code ID

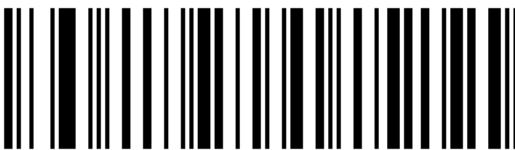
➡ 参考

設定コードをスキャンした後、[バーコードタイプ ID テーブル](#) およびバーコードのデータ化と編集を参照して以降の入力を完了してください。



すべてのカスタマイズをクリアします Code ID

AIM ID



* バーコード AIM ID を無効にする



バーコード AIM ID を有効にする前



バーコード AIM ID を有効にした後

バーコードのサフィックスとサフィックスの順序の選択

接頭語



* 開始文字 + Code ID + AIM ID + カスタムプレフィックス



開始文字 + カスタムプレフィックス + Code ID + AIM ID

サフィックス



* カスタムサフィックス + Code ID + AIM ID + ターミネータ



Code ID + AIM ID + カスタムサフィックス + ターミネータ

6.2 データ編集フィールドの構成

データ編集機能では、開始/終了フィールドの長さを構成することで、完全なバーコードコンテンツを含むデータフィールドを開始/中央/終了の3つのフィールドにカスタマイズできます。実際のニーズに応じて、開始/終了フィールドの長さや送信構成を設定してください。

注釈

カスタマイズされたサフィックス、開始文字、終了文字、Code ID、AIM ID、およびその他の非バーコードコンテンツは、データ編集機能の影響を受けません。

トランスポート構成



* 転送完了データフィールド



開始フィールドのみが転送されます



センターフィールドのみが転送されます



End フィールドのみが転送されます

フィールド長の設定



開始セグメントの長さを設定する



終了セグメントの長さを設定する

i 注釈

フィールド長の設定はバイト単位で、10 進データを使用して設定されます。

i 例

開始セグメントの長さを 10 バイトに設定します。

1. 「開始セグメント長の設定」機能設定コードをスキャンします。
2. バーコードのデータ化と編集の 1 と 0 を順番にスキャンします。
3. 「保存」セットアップコードをスキャンします。

7 キャラクター設定

7.1 GS 制御文字置換



* 交換しないでください

ⓘ 重要

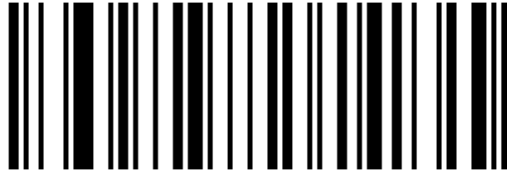
文字「Ç」を出力するには、まず「仮想キーボード有効 (モード 1)」または (モード 2) または (モード 3) をスキャンする必要があります。



Ç に置き換えます



| に置き換えます



^] に置き換えます

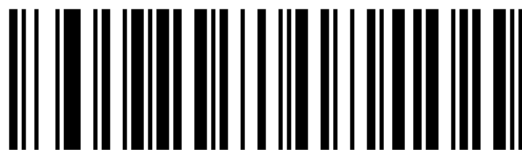


] に置き換えます



に置き換えます

7.2 制御文字出力



バーコード内の制御文字が出力されない



* バーコード内の制御文字出力

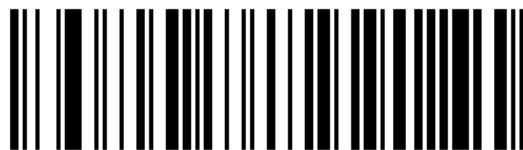
8 バーコード設定

8.1 コード体系の選択

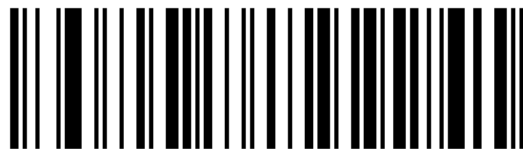
すべてのバーコードを有効/無効にする

注釈

すべてのバーコードタイプを有効にすると、デコード速度が低下する可能性があります。使用シナリオに応じて、必要なバーコードタイプを有効にすることをお勧めします。すべてのバーコードに対してデフォルトで有効になっています。



すべてのバーコードタイプを有効にする



すべてのバーコードタイプを無効にする

すべての QR コードを有効/無効にする



すべての QR コードを有効にする

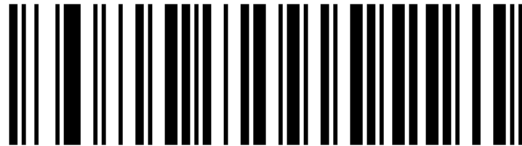


すべての 1D コードを無効にする

すべての QR コードを有効/無効にする



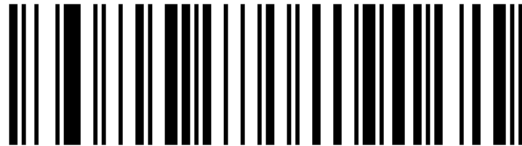
すべての QR コードを有効にする



すべての QR コードを無効にする

Codabar

バーコードの有効化/無効化



Codabar を有効にする



Codabar が無効になっています

Codabar の開始文字と終了文字



* Codabar の開始文字と終了文字を送信しないでください



Codabar の開始文字と終了文字を送信する

Codabar の長さ制限の設定

注釈

長さの範囲: 0~50 位。



Codabar の最小長制限

注釈

長さの範囲: 0~50 位。



Codabar の最大長制限

Code 39

バーコードの有効化/無効化

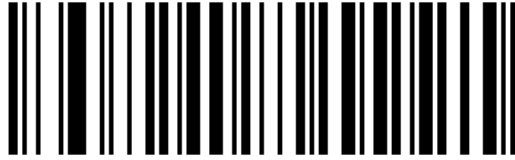


Code 39 が有効になりました

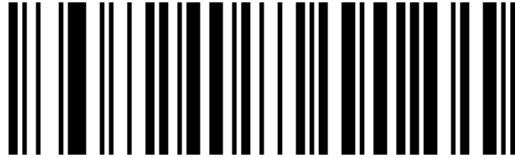


Code 39 が無効になりました

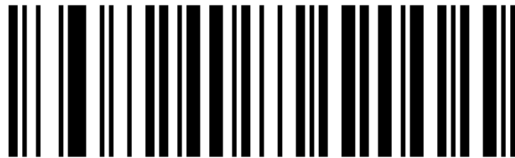
Code 39 チェックディジット



* Code 39 チェックが無効になりました

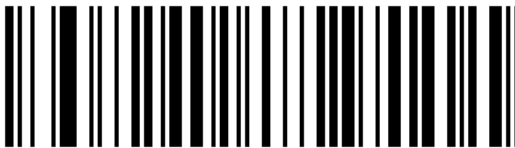


Code 39 チェックは有効ですが、チェックディジットは送信されません

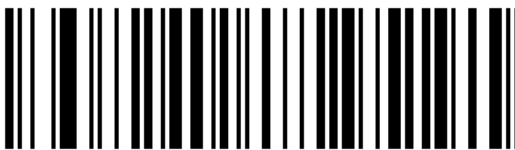


Code 39 チェックイネーブルとチェックディジットの送信

Code 39 Full ASCII



Full ASCII が有効になりました

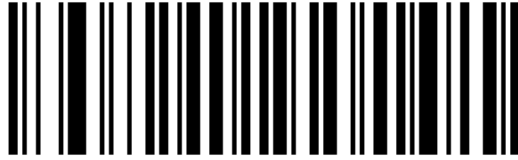


* Full ASCII が無効になりました

Code 39 開始文字と終了文字



* Code 39 の開始文字と終了文字を送信しないでください

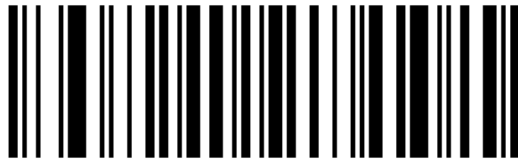


Code 39 の開始文字と終了文字を送信します

Code 39 長さ制限の設定

注釈

長さの範囲: 0~50 位。



Code 39 最小長制限

注釈

長さの範囲: 0~50 位。



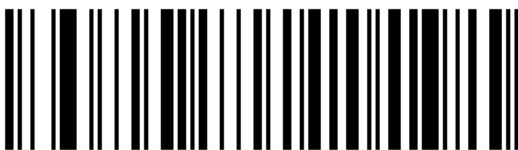
Code 39 最大長制限

Code 32

重要

この機能を使用する前に、Code 39 を有効にしてください。

バーコードの有効化/無効化



コード 32 が有効になりました



コード 32 が無効になっています

コード 32 プレフィックス



Code 32 プレフィックスが有効になりました



* Code 32 プレフィックスが無効になっています

インターリーブド 2 of 5 (ITF25)

バーコードの有効化/無効化

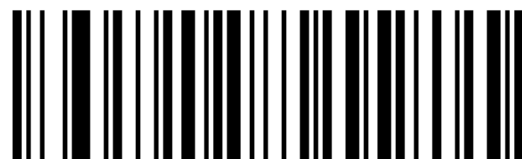


ITF25 が有効になりました



ITF25 が無効になりました

Interleaved 2 of 5 (ITF25) チェックディジット



* ITF25 チェックが無効になりました



ITF25 チェックは有効ですが、チェックディジットは送信されません



ITF25 チェックイネーブルとチェックディジットの送信

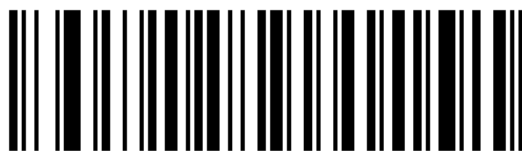
Interleaved 2 of 5 (ITF25) 長さの選択

注釈

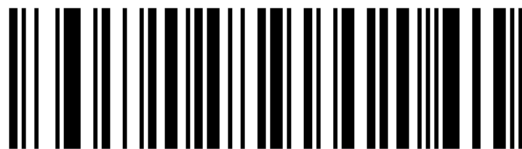
長さの範囲: 4-24 位。



* ITF25 任意の長さ



ITF25 6 ビット長



ITF25 8 ビット長



ITF25 10 ビット長



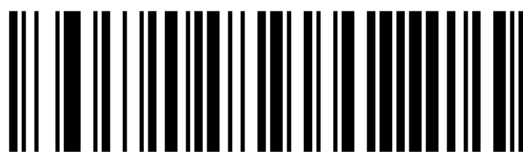
ITF25 12 ビット長



ITF25 14 ビット長



ITF25 16 ビット長



ITF25 18 ビット長



ITF25 20 ビット長



ITF25 22 ビット長



ITF25 24 ビット長

Interleaved 2 of 5 の長さ制限設定

注釈

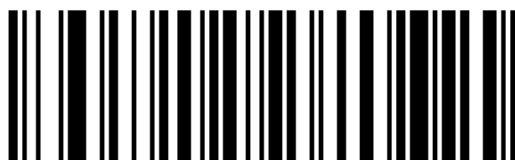
長さの範囲: 0~50 位。



Interleaved 2 of 5 最小長制限

注釈

長さの範囲: 0~50 位。



Interleaved 2 of 5 最大長制限

Industrial 2 of 5 (Industrial 25 コード)/IATA

バーコードの有効化/無効化



インダストリアル 2 of 5 /IATA 対応



インダストリアル 2 of 5 /IATA が無効になっています

Industrial 2 of 5 /IATA の長さ制限設定

i 注釈

長さの範囲: 0~50 位。



Industrial 2 of 5 /IATA の最小長制限

i 注釈

長さの範囲: 0~50 位。



Industrial 2 of 5 /IATA の最大長制限

マトリックス 2/5 (マトリックス 25 コード)

i 注釈

設定範囲: 4-24 位。

バーコードの有効化/無効化



マトリックス 2/5 が有効になりました



マトリックス 2/5 が無効になっています

マトリックス 2/5 の長さ制限設定

注釈

長さの範囲: 0~50 位。



マトリックス 2/5 の最小長制限

注釈

長さの範囲: 0~50 位。



マトリックス 2/5 の最大長制限

Code 93

バーコードの有効化/無効化



コード 93 が有効になりました



コード 93 は無効です

Code 93 の長さ制限の設定

i 注釈

長さの範囲: 0~50 位。



Code 93 の最小長制限

i 注釈

長さの範囲: 0~50 位。



Code 93 の最大長制限

Code 11

バーコードの有効化/無効化



コード 11 が有効になりました



* コード 11 は無効です

コード 11 チェックデジット出力



Code 11 チェックデジット出力有効

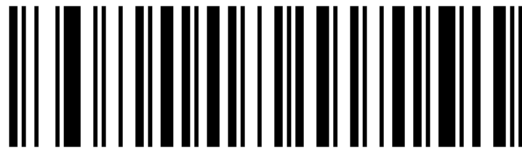


* コード 11 チェックディジットの出力が無効になっています

コード 11 チェックの選択



* コード 11 チェックサムが無効になっています



Code 11 1桁のチェックサム



Code 11 2桁のチェックサム

コード 11 の長さ制限の設定

注釈

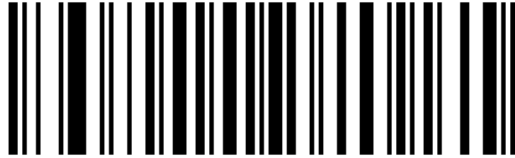
長さの範囲: 0~50 位。



コード 11 の最小長制限

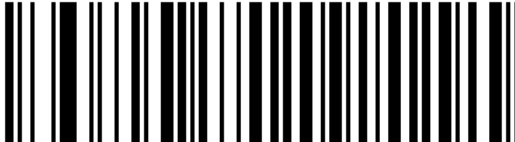
注釈

長さの範囲: 0~50 位。

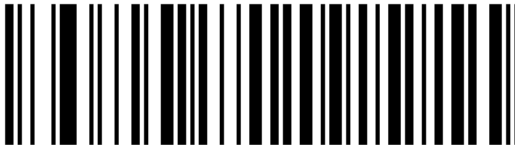


コード 11 の最大長制限

Code 128



Code 128 が有効になりました



Code 128 が無効になりました

GS1-128



GS1-128 が有効になりました

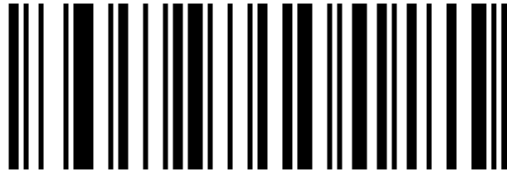


GS1-128 が無効になりました

ISBT-128



ISBT 128 が無効になっています



ISBT 128 が有効になっています

Code 128 長さ制限の設定

注釈

長さの範囲: 0~50 位。



Code 128 最小長制限

注釈

長さの範囲: 0~50 位。



Code 128 最大長制限

UPC-A

バーコードの有効化/無効化



* UPC-A が有効になりました



UPC-A が無効になりました

UPC-A チェックディジット



* UPC-A チェックディジットを送信します

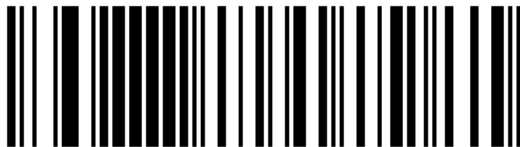


UPC-A チェックディジットを送信しないでください

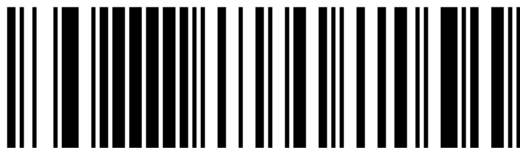
UPC-A 主人公



(UPC-A から EAN-13) UPC-A は国コード + システム文字を送信します



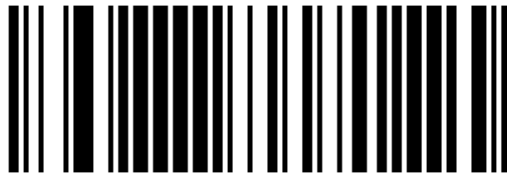
* UPC-A はシステム文字を送信します



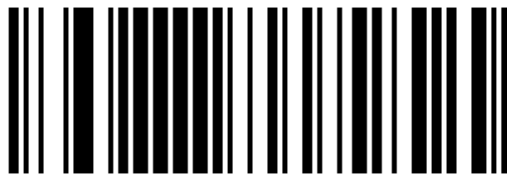
UPC-A の先頭文字を送信しないでください

UPC-E

バーコードの有効化/無効化

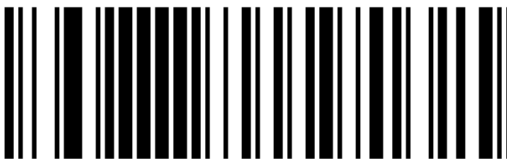


* UPC-E が有効になりました



UPC-E が無効になりました

UPC-E チェックディジット



* UPC-E チェックディジットを送信します

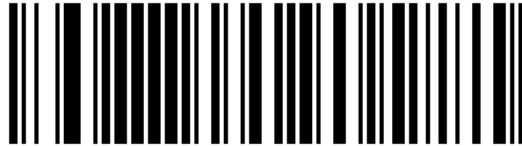


UPC-E チェックディジットを送信しないでください

UPC-E 拡張機能 UPC-A



UPC-E 拡張機能 UPC-A が有効になりました

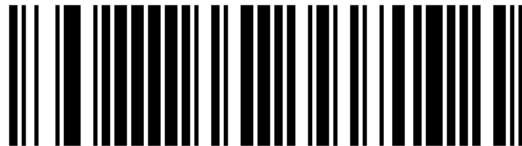


* UPC-E 拡張 UPC-A 無効

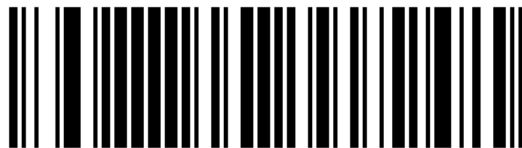
UPC-E 主人公



UPC-E は国コード + システム文字を送信します



* UPC-E はシステム文字を送信します



UPC-E の先頭文字を送信しないでください

EAN/JAN-8

バーコードの有効化/無効化

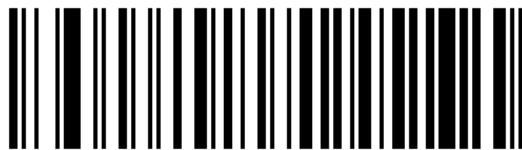


EAN/JAN-8 の有効化



EAN/JAN-8 が無効になっています

EAN-8 から EAN-13



* EAN-8 から EAN-13 が無効になりました

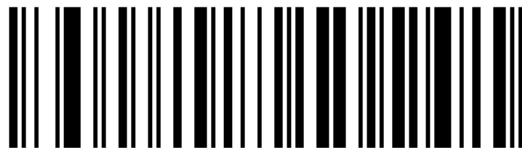


EAN-8 ～EAN-13 が有効になりました

EAN-8 チェックディジット



* EAN-8 チェックディジットを送信します



EAN-8 チェックディジットを送信しないでください

EAN/JAN-13



* EAN/JAN-13 が有効になりました



EAN/JAN-13 が無効になっています

EAN-13 チェックディジット



* EAN-13 チェックディジットを送信します



EAN-13 チェックディジットを送信しないでください

UPC/EAN/JAN アドオンコード



* UPC/EAN/JAN アドオンを無視します



UPC/EAN/JAN アドオンコードをデコードする

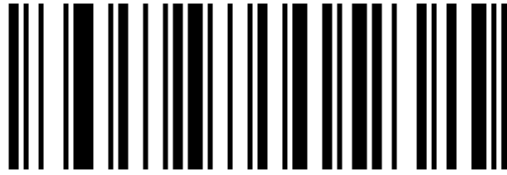


アダプティブ UPC/EAN/JAN アドオンコード

EAN-13 から ISBN



EAN-13 を ISBN コードに有効にする



* ISBN コードへの EAN-13 を無効にする

EAN-13 から ISSN へ



EAN-13 を ISSN コードに有効にする



* ISSN コードへの EAN-13 を無効にする

GS1 データバー (RSS14)



GS1 データバーが有効になりました



* GS1 データバーが無効になりました

GS1 DataBar Limited



GS1 データバー限定が有効になりました



* GS1 DataBar Limited が無効になっています

GS1 DataBar Expanded



GS1 データバー拡張が有効になりました



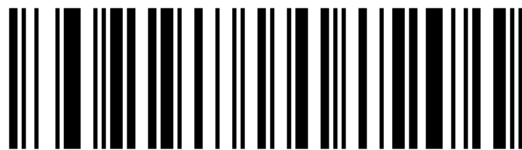
* GS1 DataBar 拡張が無効になりました

MSI

MSI バーコードを有効/無効にする



MSI コードが有効になっている



MSI コードが無効になっています

MSI チェックデジット出力

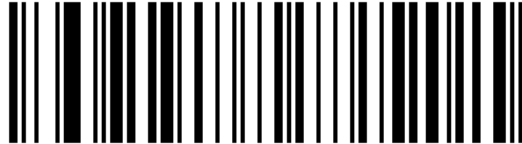


MSI コードチェックデジット出力有効

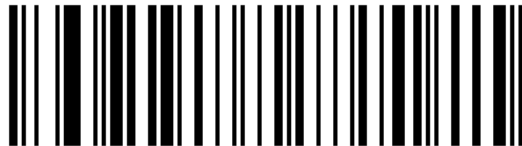


MSI コードチェックデジット出力無効

MSI チェックデジットの選択



MSI コード 1 チェックデジット



MSI コード 2 チェックデジット

MSI コード 2 桁チェックサム選択



MOD10/MOD10

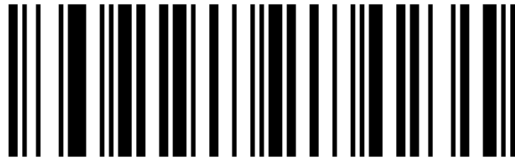


MOD10/MOD11

MSI コード長制限設定

注釈

長さの範囲: 0~50。



MSI コードの最小長

i 注釈

長さの範囲: 0~50。



MSI コードの最大長

Febraban

ⓘ 重要

フェブラバン機能を有効にする前に、AIM ID 機能を無効にしてください。

フェブラバンバーコードの有効化/無効化 (ITF25)

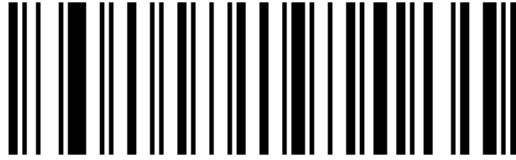


フェブラバンコード (ITF25) が有効になりました

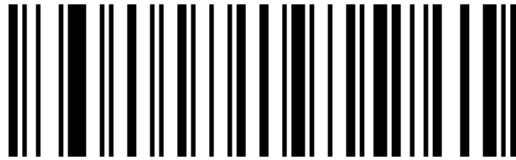


* フェブラバンコード (ITF25) が無効になっています

フェブラバンバーコードの有効化/無効化 (Code 128)

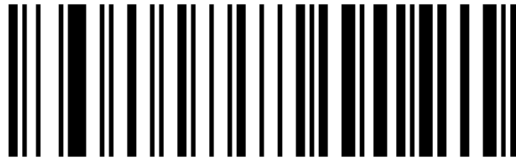


フェブラバンコード (Code 128) が有効になりました

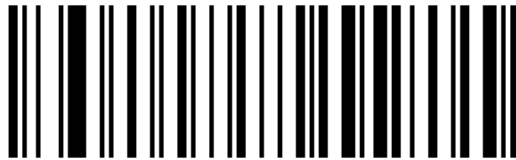


* フェブラバンコード (Code 128) が無効になっています

フェブラバンチェック



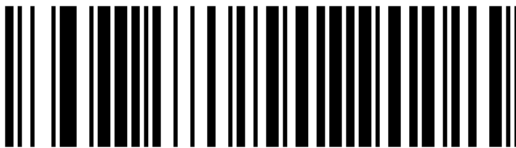
Febraban コード検証が有効になっています



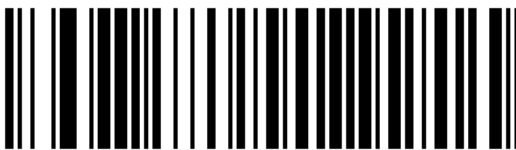
* フェブラバンコードチェックが無効になっています

PDF417

PDF417 コードを有効/無効にする



PDF417 が有効になりました



PDF417 が無効になりました

PDF417 コード長制限設定

注釈

長さの範囲: 1~2750。



PDF417 最小長制限

注釈

長さの範囲: 1~2750。



PDF417 最大長制限

MicroPDF417

MicroPDF417 コードを有効/無効にする



MicroPDF417 が有効になっています

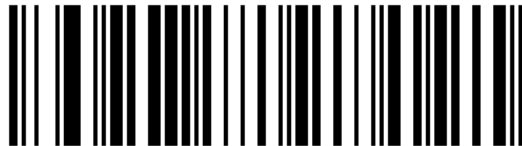


MicroPDF417 が無効になっています

MicroPDF417 のコード長制限設定

注釈

長さの範囲: 1~366。



MicroPDF417 の最小長制限

注釈

長さの範囲: 1~366。



MicroPDF417 の最大長制限

QR Code

QR Code の有効化/無効化



QR Code が有効になりました



QR Code が無効になりました

QR Code 長さ制限の設定

注釈

長さの範囲: 1~7089。



QR Code 最小長制限

注釈

長さの範囲: 1~7089。



QR Code 最大長制限

QR Code URL Link



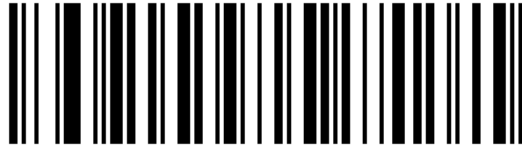
QR Code URL リンクが無効になりました



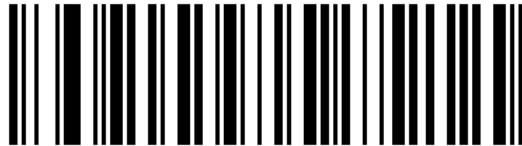
QR Code URL リンクの有効化

Micro QR

マイクロ QR を有効/無効にする



マイクロ QR が有効になっている



マイクロ QR が無効になっています

マイクロ QR の長さ制限設定

注釈

長さの範囲: 1~35。



マイクロ QR の最小長制限

注釈

長さの範囲: 1~35。



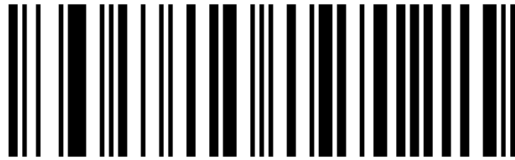
マイクロ QR の最大長制限

Data Matrix

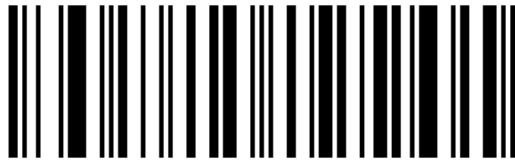
Data Matrix コードを有効/無効にする

注釈

長さの範囲: 1~3116。



Data Matrix が有効になりました



Data Matrix が無効になりました

Data Matrix コード長制限設定

注釈

長さの範囲: 1~3116。



Data Matrix 最小長制限

注釈

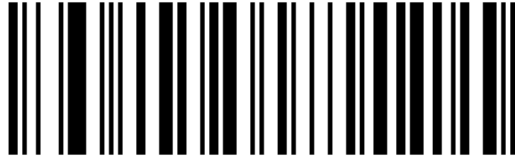
長さの範囲: 1~3116。



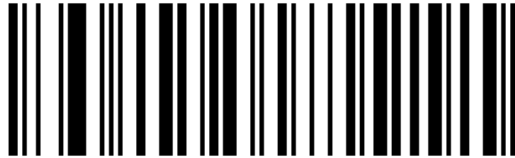
Data Matrix 最大長制限

Aztec Code

Aztec Code バーコードを有効/無効にする



アステカコードの有効化



アステカコードが無効になっています

アステカコードの長さ制限の設定

注釈

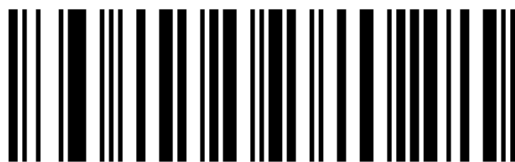
長さの範囲: 1~3832。



アステカコードの最小長制限

注釈

長さの範囲: 1~3832。



アステカコードの最大長制限

8.2 リテラシー向上のオプション

パフォーマンスデモ用バーコード

注釈

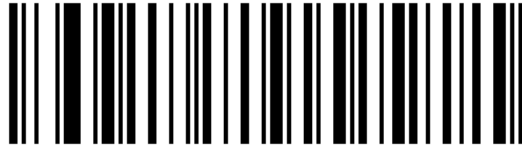
この構成は一時的なものであり、再起動すると無効になります。



パフォーマンスデモモードを有効にする

逆色読み取りオプション

(一次元コード/Data Matrix/アステカコードの場合)



* 通常のバーコードのみをデコードします



逆色バーコードのみをデコードします



通常のバーコードと反転バーコードの両方をデコードできます

標準化されていないバーコードオプション

⚠ 警告

非標準バーコードの読み取りを有効にすると、一部の非標準バーコードとの互換性が向上しますが、それに応じて読み取りエラーの可能性が高くなります。



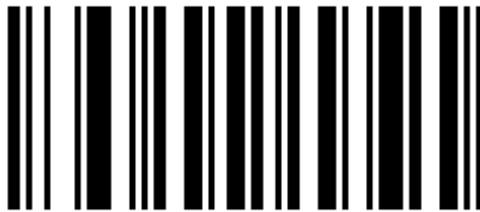
* 不規則なバーコード読み取りが無効になっています



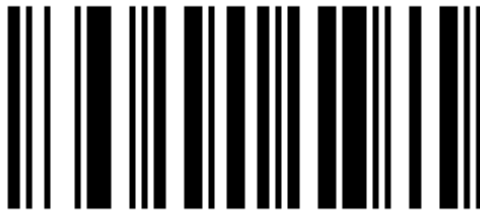
不規則バーコード読み取り可能

9 付録

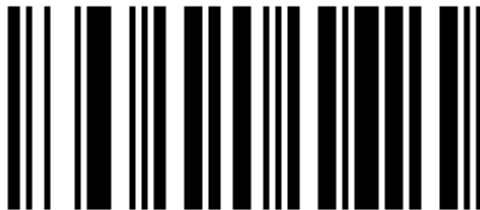
9.1 バーコードのデータ化と編集



0



1



2



3



4



5



6



7



8



9



A



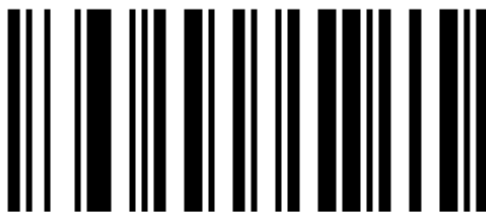
B



C



D



E



F



現在の設定をキャンセルする



以前に読み取ったデータ文字列をキャンセルします



前回読み込んだデータをキャンセルします



保存

9.2 バーコードタイプ ID テーブル

コードの種類	16 進数値	デフォルト Code ID
すべてのコード体系	99	
Codabar	61	a
Code 128	6A	j
Code 32	3C	<
Code 93	69	i
Code 39	62	b
Code 11	48	H
EAN-13	64	d
EAN-8	64	d
GS1 DataBar	52	R
GS1-128 (EAN-128)	6A	j
2 of 5		
Interleaved 2 of 5	65	e
Matrix 2 of 5	76	v
Industrial 2 of 5/IATA	44	D
UPC-A	63	c
UPC-E	63	c
ISBN	42	B
ISSN	6E	n
MSI	6D	m
Aztec Code	7A	z
Data Matrix	75	u
PDF417	72	r
MicroPDF417	53	S
QR Code	51	Q
Micro QR	51	Q

9.3 AIM ID テーブル

コードの種類	AIM ID	説明する
Codabar	]FM	m: 0~1
Code 128	]Cm	m: 0、1、2、4
Code 32	]A0	
Code 93	]G0	
Code 39	]午前	m: 0、1、3、4、5、7
Code 11	]うーん	m: 0、1、3、8、9
EAN-13 / EAN-8	]ええと	m: 0、1、3、4
GS1 DataBar	]e0	
GS1-128 (EAN-128)	]C1	
Interleaved 2 of 5	]私は	m: 0、1、3
Matrix 2 of 5	]X0	
Industrial 2 of 5/IATA	]S0	
UPC-A/ UPC-E	]ええと	m: 0、3
ISBN	]X0	
ISSN	]X0	
MSI	]うーん	m: 0、1
Aztec Code	]z0	
Data Matrix	]dm	メートル: 0~6
PDF417 / MicroPDF417	]うーん	メートル: 0~5
QR Code / Micro QR	]Qm	メートル: 0~6

9.4 可視文字 ASCII テーブル

10 進数	16 進数	キャラクタ	10 進数	16 進数	キャラクタ	10 進数	16 進数	キャラクタ
32	20	<スペース>	64	40	@	96	60	`
33	21	!	65	41	A	97	61	a
34	22	“	66	42	B	98	62	b
35	23	#	67	43	C	99	63	c
36	24	\$	68	44	D	100	64	d
37	25	%	69	45	E	101	65	e
38	26	&	70	46	F	102	66	f
39	27	‘	71	47	G	103	67	g
40	28	(	72	48	H	104	68	h
41	29	)	73	49	I	105	69	i
42	2A	*	74	4A	J	106	6A	j
43	2B	+	75	4B	K	107	6B	k
44	2C	,	76	4C	L	108	6C	l
45	2D	-	77	4D	M	109	6D	m
46	2E	.	78	4E	N	110	6E	n
47	2F	/	79	4F	O	111	6F	o
48	30	0	80	50	P	112	70	p
49	31	1	81	51	Q	113	71	q
50	32	2	82	52	R	114	72	r

次のページに続く

表 1 - 前のページからの続き

10 進数	16 進数	キャラクタ	10 進数	16 進数	キャラクタ	10 進数	16 進数	キャラクタ
51	33	3	83	53	S	115	73	s
52	34	4	84	54	T	116	74	t
53	35	5	85	55	U	117	75	u
54	36	6	86	56	V	118	76	v
55	37	7	87	57	W	119	77	w
56	38	8	88	58	X	120	78	x
57	39	9	89	59	Y	121	79	y
58	3A	:	90	5A	Z	122	7A	z
59	3B	;	91	5B	[	123	7B	{
60	3C	<	92	5C	\	124	7C	
61	3D	=	93	5D	]	125	7D	}
62	3E	>	94	5E	^	126	7E	~
63	3F	?	95	5F	_			

9.5 制御文字セット (USB キーボードモード)

10 進数	16 進数	対応するキー値 (制御文字エスケープレベル)	対応するキー値 (制御文字エスケープ 1)	対応するキー値 (制御文字エスケープ 2)
0	00	予約する	Ctrl+@	Ctrl+@
1	01	Insert	Ctrl+A	Ctrl+A
2	02	Home	Ctrl+B	Ctrl+B
3	03	End	Ctrl+C	Ctrl+C
4	04	Delete	Ctrl+D	Ctrl+D
5	05	PageUp	Ctrl+E	Ctrl+E
6	06	PageDown	Ctrl+F	Ctrl+F
7	07	ESC	Ctrl+G	Ctrl+G
8	08	Backspace	Ctrl+H	Backspace
9	09	Tab	Ctrl+I	Tab
10	0A	Enter (パフォーマンスはキャリッジリターンとラインフィードの処理構成に影響されます)	Ctrl+J	Enter
11	0B	Caps Lock	Ctrl+K	Ctrl+K
12	0C	Print Screen	Ctrl+L	Ctrl+L
13	0D	Enter (パフォーマンスはキャリッジリターンとラインフィードの処理構成に影響されます)	Ctrl+M	Enter
14	0E	Scroll Lock	Ctrl+N	Ctrl+N
15	0F	Pause/Break	Ctrl+O	Ctrl+O

次のページに続く

表 2 - 前のページからの続き

10 進数	16 進数	対応するキー値 (制御文字エスケープレベル)	対応するキー値 (制御文字エスケープ 1)	対応するキー値 (制御文字エスケープ 2)
16	10	F11	Ctrl+P	Ctrl+P
17	11	矢印キー ↑	Ctrl+Q	Ctrl+Q
18	12	矢印キー ↓	Ctrl+R	Ctrl+R
19	13	矢印キー ←	Ctrl+S	Ctrl+S
20	14	矢印キー →	Ctrl+T	Ctrl+T
21	15	F12	Ctrl+U	Ctrl+U
22	16	F1	Ctrl+V	Ctrl+V
23	17	F2	Ctrl+W	Ctrl+W
24	18	F3	Ctrl+X	Ctrl+X
25	19	F4	Ctrl+Y	Ctrl+Y
26	1A	F5	Ctrl+Z	Ctrl+Z
27	1B	F6	Ctrl+[	Ctrl+[
28	1C	F7	Ctrl+\	Ctrl+\
29	1D	F8	Ctrl+]	Ctrl+]
30	1E	F9	Ctrl+^	Ctrl+^
31	1F	F10	Ctrl+_	Ctrl+_

9.6 制御文字セット (シリアルポートおよび **USB** 仮想串口)

10 進数	16 進数	対応文字
0	00	NUL
1	01	SOH
2	02	STX
3	03	ETX
4	04	EOT
5	05	ENQ
6	06	ACK
7	07	BEL
8	08	BS
9	09	HT
10	0A	LF
11	0B	VT
12	0C	FF
13	0D	CR
14	0E	SO
15	0F	SI
16	10	DLE
17	11	DC1
18	12	DC2
19	13	DC3
20	14	DC4
21	15	NAK
22	16	SYN
23	17	ETB

次のページに続く

表 3 – 前のページからの続き

10 進数	16 進数	対応文字
24	18	CAN
25	19	EM
26	1A	SUB
27	1B	ESC
28	1C	FS
29	1D	GS
30	1E	RS
31	1F	US

9.7 部分的な関数の構成手順と例

カスタムサフィックスの設定例

i 注釈

構成バーコードをスキャンして、プレフィックスとサフィックスを設定します。各プレフィックスまたはサフィックス文字は最大 10 文字です。(カスタマイズされたサフィックスを確実に出力できるようにするには、コード読み取りデバイスのカスタムサフィックス出力オプションを有効に設定してください。)

i 例 1.1: すべての種類のバーコードにカスタムプレフィックス XYZ を追加する

バーコードタイプ ID テーブル をクエリすると、すべてのコードシステムの 16 進値は 99 になります。可視文字 ASCII テーブル をクエリすると、XYZ に対応する 16 進値は 58, 59, 5A です。

1. 「カスタムプレフィックス」機能の設定コードを読み取ると、コード読み取り装置から「ピッ…ピッ…」という音が 2 回鳴ります。
2. バーコードのデータ化と編集 で、9、9、5、8、5、9、5、A を順番にスキャンします。
3. 「保存」セットアップコードをスキャンします。

i 注釈

保存する前にスキャンしたバーコードを変更する必要がある場合は、「以前に読み取ったデータをキャンセル」または「以前に読み取ったデータ文字列をキャンセル」をスキャンして再構成することもできます。この設定を途中で中止する必要がある場合は、「現在の設定をキャンセル」をスキャンしてください。

i 例 1.2: カスタムプレフィックス R を QR Code に追加する

バーコードタイプ ID テーブル をクエリすると、QR Code の 16 進値は 51 になります。可視文字 ASCII テーブル をクエリすると、R に対応する 16 進値は 52 です。

1. 「カスタムプレフィックス」機能設定コードをスキャンします。

2. バーコードのデータ化と編集 で、5、1、5、2を順番にスキャンします。
3. 「保存」セットアップコードをスキャンします。

i 例 1.3: QR Code のカスタムプレフィックスをキャンセルする

サフィックスとサフィックスをカスタマイズする場合は、バーコードタイプの文字の後に他の文字を追加せずに保存して、このタイプのバーコードのカスタムサフィックスをクリアします。

1. 「カスタムプレフィックス」機能設定コードをスキャンします。
2. バーコードのデータ化と編集 の5と1を順番にスキャンします。
3. 「保存」セットアップコードをスキャンします。

i 注釈

以前にすべてのバーコードにプレフィックスが追加されていた場合、構成後に QR Code プレフィックスがすべてのバーコードに追加されたプレフィックスに復元されます。

さまざまなバーコードタイプに追加されたサフィックスをクリアする必要がある場合は、[すべてのカスタムプレフィックスをクリア] および [すべてのカスタムサフィックスをクリア] 設定コードをスキャンしてください。

バーコード長制限の設定例

ii 重要

バーコードの最小長制限を構成する場合は、構成された最小長が現在の最大長構成を超えていないことを確認する必要があります。そうしないと、エラーが表示されます。同様に、バーコードの最大長制限を構成する場合は、構成された最大長が現在の最小長構成を下回らないことも確認する必要があります。

i 例 2.1: Code 128 バーコードの長さを 4～12 桁に設定する

1. 「Code 128 最小長制限」機能設定コードをスキャンします。
2. バーコードのデータ化と編集 内の4を順番にスキャンします。
3. 「保存」セットアップコードをスキャンします。
4. 「Code 128 最大長制限」機能設定コードをスキャンします。
5. バーコードのデータ化と編集 の1と2を順番にスキャンします。
6. 「保存」セットアップコードをスキャンします。

i 例 2.2: Interleaved 2 of 5 バーコードの長さを 14 桁に設定する

構成 Interleaved 2 of 5 バーコードの長さは 14 桁です。クイック構成バーコード ITF25 14 桁の長さを直接スキャンして構成することも、バーコードの最大長と最小長を通じて構成することもできます。

1. 「Interleaved 2 of 5 Minimum Length Limit」機能コードをスキャンします。
2. バーコードのデータ化と編集 の 1 と 4 を順番にスキャンします。
3. 「保存」セットアップコードをスキャンします。
4. 「Interleaved 2 of 5 Maximum Length Limit」機能コードをスキャンします。
5. バーコードのデータ化と編集 の 1 と 4 を順番にスキャンします。
6. 「保存」セットアップコードをスキャンします。

i 例 2.3: Code 39 バーコードの長さをサポートされている任意の長さに設定する

1. 「Code 39 最小長制限」機能設定コードをスキャンします。
2. バーコードのデータ化と編集 内の 0 を順番にスキャンします。
3. 「保存」セットアップコードをスキャンします。
4. 「Code 39 最大長制限」機能設定コードをスキャンします。
5. バーコードのデータ化と編集 内の 0 を順番にスキャンします。
6. 「保存」セットアップコードをスキャンします。

USB キーボード出力速度の構成例

クライアントホストのパフォーマンスが弱く、送信エラーが発生しやすい場合は、USB キーボードの出力速度を 50 ミリ秒などの遅い速度にカスタマイズする必要があります。

1. 「カスタム出力速度」機能設定コードをスキャンします。
2. バーコードのデータ化と編集 の 5 と 0 を順番にスキャンします。
3. 「保存」セットアップコードをスキャンします。

デコード成功プロンプトトーン周波数をカスタマイズする

デコードされたオーディオレートを 2K に設定します。

1. 「デコード成功プロンプトトーン周波数のカスタマイズ」機能設定コードをスキャンすると、コード読み取り装置が「ピー…ピー…」というピープ音を 2 回鳴らします。
2. バーコードのデータ化と編集 で、2、0、0、0 を順番にスキャンします。
3. 「保存」セットアップコードをスキャンします。

警告音

データ通信に異常が発生した場合、コード読み取り装置から警報音が4回連続で鳴ります。このような場合は、接続回線が正常かどうかを確認してください。

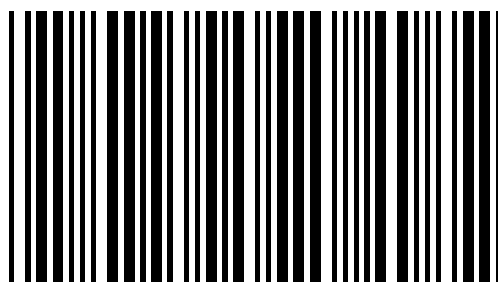
💡 Tip

次の方法は、読み取りの成功率を向上させるのに役立ちます。良好な読み取り結果を得るには、コード読み取りデバイスから発せられる照準ビームはバーコードの中心に照準を合わせる必要がありますが、読み取りのために任意の方向に照準を当てることができます。

コード読み取りデバイスをバーコードの前に置き、ボタンを押し、照準ビームをバーコードの中心に向けます。

コード読み取りデバイスがバーコードに近づくほど、照準ビームは小さくなります。コード読み取りデバイスがバーコードから離れるほど、照準ビームは大きくなります。バーコードが小さい場合は、コード読み取りデバイスをバーコードに近づける必要があります。バーコードが大きい場合は、バーコードを正確に読み取りやすくするために、コード読み取りデバイスをバーコードから少し離す必要があります。

バーコードの反射率が高い場合 (コーティングされた表面など)、バーコードを正常にスキャンするには、読み取りデバイスを斜めに傾ける必要がある場合があります。



安全性



安全性

安全に関するヒント

警告

コード読み取り装置を使用する場合、照明光は非常に強いです。不快感や怪我を避けるため、目を直接見たり、目に向けたりしないでください。